Q&A 集 No.1
(Q1～Q3) 2025 年 2 月 17 日から公開

Q1　想念の世界に放出された、皆様からの質問や声（意見）の中で私が拾えたもの、

「創造主になることを目指さなくても良(よ)いので、どこまでも清涼(せいりょう)さを求めて向上し続ける惑星霊界で、ずーっと、過ごしたいのですが可能ですか？」

に対して回答させていただきます。

A1　霊界も物質界の地上世界も、基本的に皆様の自由意思が尊重されます。つまり、霊界や地上でどのように過ごすかは、基本的に皆様の自由です。基本的にと言ったのは、皆様の自由意思は最大限尊重されますが、全霊体に、創造主が霊界と物質界の宇宙を創造した目的である、「すべての霊体を創造主の霊格（霊力）レベルに導く」と言う真理と摂理が自動的に働くことになるからです。

　では、どのような形で、この真理と摂理が働くのか？

　惑星霊界の最高級界であっても、六道輪廻(ろくどうりんね)（地獄、餓鬼(がき)、畜生(ちくしょう)、修羅(しゅら)、人(にん)、天）で言う、天界に相当する世界です。つまり、清涼さはあっても、輪廻を繰り返す迷える魂が集(つど)う世界です。「第 6 巻」で述べたように、惑星霊は平均 2 万年に 1 度、地上に降りて人間の姿で心を磨く修行をしなければなりません。

　これも、「第 6 巻」で述べていますが、惑星霊界は、自己責任や自力解決の精神は高いものの、「困っている人」がいても基本的に「捨て置け」の世界です。

　この世界に、惑星霊たちを、創造主の霊格者・霊力者へ導くために真理と摂理が働くのです。

未来の創造主になるための必須実践課題の１つに、「すべての霊体を選(え)り好みすることなく、見返りを求めず無上の愛を注いで救ってゆくこと（＝藍金律(らんごんりつ)の実践）」があります。したがって、「困っている人」がいても、「捨て置け」の精神は、創造主の藍金律の精神に照らし合わせると、反真理的精神・行為になるのです。

したがって、このような反真理的行為を繰り返した惑星霊は、惑星霊界最高級界での生活を維持できなくなるため、やがて、人霊(じんれい)界や畜生界（動物や昆虫の世界）に落ちて、修行をやり直すことになります。

具体的にお話しすると、数万年間、惑星霊界最高級界で過ごした惑星霊は、「困っている人びとを見捨てた行為」が創造主の怒りに触れて、人霊界や動物霊界に落ち、動物霊界にまで落ちた者は、この世界から、10 億年ほど掛けて（苦しみを味わいながら）人霊界、さらにそこから 10 億年ほど掛けて（苦しみを味わいながら）惑星霊界を目指して心の修行をすることになります。

この輪廻を卒業して恒星霊界に入ってゆくためには、強い、自己責任や自力解決の精神を維持しながら、（これに加えて）「すべての霊体を選り好みすることなく、見返りを求めず無上の愛を注いで迷わず救ってゆく」藍金律の精神を学び始める必要があります。

それで、惑星霊界最高級界にまで進化した惑星霊たちは、惑星霊界大学院博士課程最高難度クラスで、銀河霊や恒星霊たちから、私の教え（真理と摂理の働き）を学んで、より高い霊格者・霊力者へと導かれ、惑星霊界を卒業して恒星霊界へ入ってゆけるよう、自動的な配慮がなされています。

でも、困っている人に対して「捨て置け」の態度をとっていた霊体が、いきなり宇宙霊レベルに求められる藍金律である「すべての霊体を選り好みすることなく、見返りを求めず無上の愛を注いで迷わず救

ってゆく」実施は、ほぼ不可能です。

ですから、惑星霊が恒星霊に進化するために求められる資質を正確に語ると、「六道輪廻の迷いの世界である惑星霊界を卒業して、恒星霊界に入る目的意識をもって（つまり、惑星霊界や恒星霊界では、見返りを期待してでも善行を実践することが、むしろ推奨（すいしょう）される世界なのです。）、可能な限り、困っている人に親切に接することができる霊体になること」です。

ここで、当初の質問に戻って、「創造主になることを目指さなくても良いので、どこまでも清涼さを求めて向上し続ける惑星霊界で、ずーっと、過ごしたいのですが可能ですか？」に対する回答ですが、

「上記の理由で、それは、ちょっと無理かも」

になります。

Q2　同一類魂内の霊体には、霊格・霊力の差はあるのでしょうか？

A2　恒星霊以下の類魂内では、多少の差はありますが、銀河霊の類魂内では、基本的に差はありません。それは、なぜか？　銀河霊は、罪を償（つぐな）い合う方針で結ばれている、つまり、天罰も褒美（ほうび）・福徳も類魂たちと分かち合う霊体ですから、地上でAさんが罪を犯した場合、その天罰を霊界の類魂の中で、その天罰に最も耐えることが可能な霊体（＝霊力・霊格が高い霊体）が引き受けることになり、地上でAさんが善行を行った場合、その褒美・福徳を霊界の類魂のなかで、その褒美・福徳を最も必要とする霊体（＝霊力・霊界が低い霊体）が受けとるため、類魂内の霊力・霊格には、基本的に差がないのです。ですから、五霊は、正確には「五大銀河類魂霊団」です。

また、惑星霊界以下では、基本的に自己責任・自力解決の（天罰・褒美・福徳は自身で受け取る）世界ですから、類魂内の霊体には多少

の差が生じています。一方、恒星霊界では、罪を償い合う精神・効果を学び始めている世界ですから、この差（＝類魂内の霊格・霊力の差）は、惑星霊界以下の世界と比べると、かなり小さくなっています。

Q3　飢え苦しむ者たちや地震や水害で被災して苦しむ者たちや難病で苦しむ者たちがいるにも関わらず、贅沢三昧の日々を送る独裁者や国王たちや金持ちたち（以下「贅沢三昧者たち」）が天国（惑星霊界以上）の世界に入れない（つまり地獄に落ちる）のは、どのような真理と摂理の働きによるのでしょうか？

A3　「第 6 巻」の Q7 と A7 で語ったように、銀河霊以下の霊体は、第一霊と宇宙霊たちから注がれる愛（＝善想念）を受け取って生命を維持し活動しています。そして、第一霊と宇宙霊たちは、銀河霊、恒星霊、・・・・・・、物質霊、想念たちから送られてくる感謝の念（＝善想念）を受け取り、このエネルギーを再び、（銀河霊以下の霊体の活動エネルギーとなる）愛に変えて、銀河霊以下の霊体に注いでいます。同じように、銀河霊たちが、恒星霊以下の霊体を慈（いつく）しむ愛（＝善想念）、このエネルギーも恒星霊たち以下の霊体の活動エネルギーとなっています。
つまり、全霊体（生命体）は、上層の霊体から注がれる愛（類魂から注がれる愛を含む）と、下層の霊体から送られてくる感謝の念（類魂から送らてくる感謝の念を含む）によって活動エネルギーを得ています。このようなことから、贅沢三昧者の生活は、多くの霊体たちから反感を買う反真理的行為（霊界と物質界の宇宙の平和と調和と秩序を乱す行為）であるため、彼らの霊格・霊力・生命活動エネルギーは急降下し、地獄の世界に落ちてゆくことになるのです。それに、贅沢三

昧者たちが天国の世界に入ったならば、このような生活に多くの人たちが憧れ、世の中は滅茶苦茶です。なので、皆様は、可能な範囲で、飢え苦しむ者たちや地震や水害で被災して苦しむ者たちや難病で苦しむ者たちに愛を注ぐ天使的行為者になるよう努められることをお勧めします。